

## 博士論文審査報告書

氏名	羽布津 碧
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	院博甲第33号
授与機関	東京成徳大学
学位授与年月日	2025年3月19日
学位授与条件	学位規則第5条第1項
学位論文題目	早産児家族への心理的ケアの探求 —当事者研究視点に基づく家族感情と支援方法の探索—

### 1. 論文概要：（1）目的，（2）方法，（3）結果及び考察

（1）目的 早産児家族の抱く感情や、現状を明らかにし、ファミリーセンタードケア（FCC）に基づいた多職種協働による、心理的ケアプログラムの開発を目的とした。

（2）方法 研究Ⅰにおいて、全国5か所の早産児家族会が実施する家族交流会の観察調査を実施し、早産児家族の語りを「生の感情」、「主題」ごとに分類した。研究Ⅱでは、在胎期間（超早産児、極早産児、中等度早産児、後期早産児）ごとに4カテゴリーに分けた合計5名の父母に対し半構造化面接調査を実施した。研究Ⅲでは、早産児家族のQOLを心的外傷後の成長（PTG）と操作的に定義し、全国のNICUを持つ6医療施設を介し、質問紙調査により早産児家族のQOLおよびQOLに影響を及ぼす要因を探求した。研究Ⅳは、早産児家族のためのプログラムを、当事者研究の考え方に基づいた心理的ケアとして開発した。まず、FCC実践の1形態として当事者研究プログラムの共同創造の過程を日誌法（プロセスレコード）で明らかにした。「早産児家族のための当事者研究プログラム」の共同創造では、当事者の声を十分に反映させた上で当事者研究の専門家および新生児科医療の専門家との協議を行った過程を記録した。また、作成したプログラムのデモンストレーションを当事者4名に実施し、質問紙およびグループインタビューで、参加者にプログラムのプロセス評価をしてもらった。さらに、日本NICU家族会機構・JOINを通じ、全国から募集した早産児家族に対して、プログラムへの参加を呼びかけ、準実験デザインによる有効性検証を目的とし、介入群と待機群に分け、介入を試みた。

（3）結果及び考察 研究Ⅰでは、調査協力者は、「生の感情」を自分なりに捉え直した「現在の感情」を語っており、近い立場の者同士でも気を遣う様子が伺われた。研究Ⅱでは、特に児の入院中、母親は自責感を募らせていた。また、早産児家族の中でも比較が生じていることが明らかになった。さらに母親は、児の成長に安堵し、そ

の感謝を周囲の支援者に向けていた。研究Ⅲにおいては、早産児家族のQOLは、慢性肺疾患（CLD）の有無や在胎期間の長短によっても有意な得点差は見られず、これまで家族のQOLへの影響が想定されてきた医学的な重症度や在胎期間よりも、それぞれの家族の受け止め方や、対処法が影響することが示唆された。

研究Ⅳでは、完成した「早産児家族のための当事者研究プログラム」の内容を示した。プログラムの共同創造の過程を、プロセスレコード（日誌法）により明らかにした。準実験デザインによる有効性検証について、結果として、有意な差は認められなかったが、今後の課題を提示した。研究の限界として、論文提出者自身が早産児家族であることから、研究デザインの段階から、捉え方に偏りが生じている可能性があった。また、論文提出者自身の経験が一般的な体験談と考え、誘導的な質問に導いていた可能性や結果の解釈の偏りも否めない。このような偏りにも配慮して、研究成果をまとめ、発表していくことが今後の課題である。

## 2. 評 価：

早産児家族の心理を、心理学研究の代表的な観察・面接・質問紙などの方法で、明らかにした。さらに、早産児家族の心理的ケアをファミリーセンタードケアの原則に則り、早産児家族、専門家の共同で創造し、プログラム化した。作成された「早産児家族のための当事者研究プログラム」は、近年、世界各地で注目を集めるコミュニティ・ビルディングの潮流と軌を一にし、人々を結びつけ、新たなものを生み出す活動の成果である。研究上も臨床上も今後、益々の発展が期待される。独創的な研究であり、博士論文として十分に評価できる。

## 3. 最終試験結果：

2025年2月5日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

## 4. 結 論：

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2025年2月14日

	〈 所 属 ・ 職 名 〉	〈 確 認 者 氏 名 〉
主 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 特任教授	石隈 利紀
副 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 准教授	菊池 春樹
副 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 教授	茂呂 雄二
副 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 教授	田中 速